

ヒメナミキ *Scutellaria dependens* Maxim.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。低湿地に生育する植物で、愛知県では近年見かける機会が減少している。

【形態】

繊細な多年生草本。地下に細く長い走出枝が出る。茎は細く直立し、周辺の植物が少ない場所では基部から分枝し高さ 20~30cm、多い場所では上部で枝を分け高さ 60cm に達する。葉は対生し、長さ 2~6mm の柄があり、葉身は三角状卵形~長三角形、長さ 1~2cm、幅 5~15mm、先端は鈍頭、基部は切形~浅い心形、辺縁には 1~3 対の鋸歯がある。花期は 8~9 月、花は葉腋に 1 個ずつつき、花冠は白色、長さ 6~7mm、筒部はわずかに曲がる。がくは果時に長さ 2.5~3mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 38879, 1992-8-22)、4 津具 (芹沢 86210, 2010-9-19)、15 豊橋北部 (芹沢 56235, 1990-8-9)、17 田原東部 (小林 72858, 2001-7-15)。西：5 稲武 (塚本威彦 2351, 1997-7-16)、19 旭 (塚本 776, 1993-8-28)、28 額田 (小林 65058, 1998-9-5)、30 岡崎南部 (芹沢 78064, 2002-9-10)、32a 刈谷 (芹沢 47308, 1987-10-8)。尾：40a 大府 (佐野方昴 11041, 2011-7-2)。小林 (2006) によれば設楽 (区画不明) にもあるという。

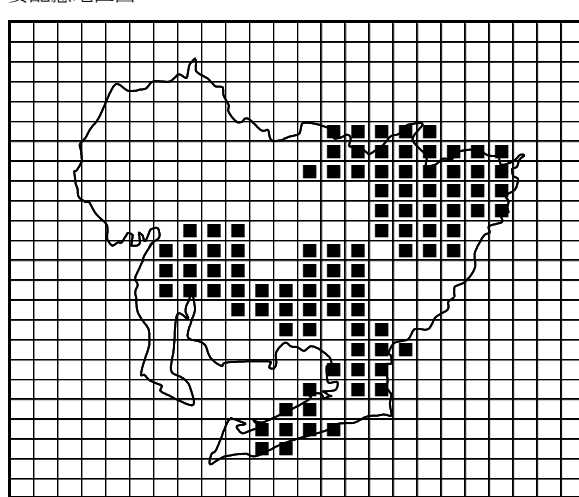
【国内の分布】

北海道、本州、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、モンゴル、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

泥質の湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

以前はそれほど少ない植物ではなかったが、近年見かける機会が減少している。上記の集団数階級は見込み値である。遷移の進行に伴う湿地の消失が減少の主要因と思われる。

【保全上の留意点】

愛知県の場合、湧水湿地は注目度が高いが、本種の生育するような低湿地の保全はあまり意識されないことが多い。低湿地にもそれなりに稀少な植物があることを忘れてはならない。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.282. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 I p.187, 平草本III p.76, 平新版 5 p.116.